

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 5月24日更新

事務事業名		学校警備事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	青木洋治
	施策	2	防犯対策の推進				所属課	学校教育課	担当者名	合林利晃
	基本事業	5	防犯に関する環境の整備				所属班	総務施設班	(内線)	2215
予算科目		会計一般	款10	項1	目2	事業連番10024	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ⑥		
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	市小中学校施設を侵入者等から守り、安全に保つため、夜間・休日の機械警備を委託する事業。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	侵入等の異常発報があった場合、警備会社から現場に急行する。また、必要に応じて学校・警察・教育委員会等と連携を取り、その後の対応を行なう。契約は長期継続契約を締結しており、委託料の月額支払等の事務処理を行う。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	特別にはない
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
市小中学校施設を侵入者等から守り、安全を保つため、夜間・休日の警備業務を委託した。		市小中学校施設を侵入者等から守り、安全を保つため、夜間・休日の警備業務を委託した。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:機械警備設置学校数	校	
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市内小中学校の校舎	校	→ア:学校数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
安全性が高まる	件	→ア:不法侵入され被害があった件数
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
侵入による被害件数が少ないことで安全性を評価できるため、上のおりの成果指標としている。		全体計画
		～年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標		ア	校		10	10	10	10	10	10	10	0
		イ										
② 対象指標		ア	校		10	10	10	10	10	10	10	0
		イ										
③ 成果指標		ア	件		0	1	0	0	0	0	0	0
		イ										
投資 事業 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			繰入金	千円								
			一般財源	千円	3,261	3,259	3,255	3,255	3,255	3,255	3,255	
	(A) 事業費計	千円	3,261	3,259	3,255	3,255	3,255	3,255	3,255	0		
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	3	2	3	2	2	2	0	
		延べ業務時間	時間	60	44	60	48	60	60	60	0	
		(B)人件費計	千円	247	177	242	195	242	242	242	0	
トータルコスト(A)+(B)				千円	3,508	3,436	3,497	3,450	3,497	3,497	0	

事務事業名	学校警備事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	--------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

※原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 これまでの侵入等について防犯カメラ等の設置を行い対策を講じてきているため、目標達成の見込みはあると考えている。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 単独の事務事業としては、向上余地はない。機械警備業務の現状を維持し施設修繕事業等と連携することで安全性の確保に努めたい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 施設を管理するうえで必要である
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 更新時に仕様を見直すことで削減の余地はあるが、警備の質の低下にも繋がるため慎重な検討が必要である。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小の人員で対応しているので、余地がない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 学校全体にかかるものであり、また、市内全校を実施している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 学校は市が管理運営を行うべきものであり、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

機械警備委託料 3, 255 千円、今後は機械警備業務の現状を維持し、侵入警報等があった際に施設修繕事業等と連携していくことが必要である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							